

# 立命館宇治中学校・高等学校

## これから国際社会で活躍する生徒たちへ

～ 立命館宇治高等学校 高校生国際フォーラムについて ～  
フォーラム開催 5 日間で学んだこと

IB 教育部 部長 Matthew Thomas

立命館宇治高等学校では、2011 年 2 月 18 日～ 22 日に高校生国際フォーラム（International Student Forum）を主催しました。韓国、中国、香港、ベトナム、ニュージーランド、インド、タイ、スリランカ、英国、米国の 10 カ国 15 校、50 名の生徒が、本校で開催した 5 日間のフォーラムに参加しました。このフォーラムの趣旨は、平和と国際理解であり「共に考え、共に学ぶ」をコンセプトに開催されました。今年第 1 回目の国際フォーラムを企画した理由は、多くの優秀な生徒を世界中から招き、世界の社会情勢や問題について意見交換を行い、共に考える機会を与えるためです。立命館宇治高等学校は、学校法人立命館の附属校として「平和、平等、協力」を提唱し、また高校生国際フォーラムはその理念を世界に示すものだと考えます。

フォーラムの 3 日間は京都へ滞在し、京都の文化や歴史を学ぶための京都文化体験プログラムを行い、清水寺や金閣寺などを訪問しました。また、2 日にわたり広島を訪れ、広島平和記念公園や資料館を訪問し、講演を聞き意見交換を行いました。また、各国の生徒がフォーラム中に「歴史を振り返る」「環境保全」「経済格差と発展」「文化と文化を繋ぐ架け橋」「核

廃絶」の 5 つのテーマに関するプレゼンテーションやディスカッションを行い、フォーラムの閉会式では各テーマについて各国の代表が発表を行いました。フォーラムで掲げた 5 つのテーマは、現在我々が直面している国際的な問題です。5 日間のフォーラムを通じて、世界中で議論されている環境問題野解決方法、経済格差の緩和方法、歴史的問題、そして核廃絶などについて話し合い、理解を深める機会を持つことができました。

フォーラムでは、世界中の様々な分野で活躍している方をゲストをお招きし、貴重な講演を聞くことができました。基調講演には、インド・ムンバイ保安官・国際バカロレア副幹事長のシャハニ・インドゥ氏、インドの地方発展問題を解決に取り組む NGO 団体 Student in Free Enterprise の創設者チャツテリー・ジョティロモイ氏、財団法人 広島平和文化センター理事長 リーパー・スティーブン氏、そして立命館大学国際関係学部長の板木雅彦教授をお招きしました。基調講演では、現在我々の社会が直面する問題に対し、新しい視点と斬新なアイデアを与えて頂きました。

フォーラム開催時の公用語は英語で、本校生徒も 70 名余り



高校生国際フォーラム 集合写真 閉会式にて